

トマトにおけるトマトキバガの被害が確認されています

－発生を確認した場合は、直ちに薬剤防除を実施しましょう！－

トマトキバガは、主にナス科作物の茎葉に幼虫が食入する害虫で、特にトマトでは、茎葉だけでなく果実にも食入するため、甚大な被害をもたらします。

現在、冬春トマトにおいて本害虫の発生が確認されています。ほ場をよく観察し、発生を確認した場合は、直ちに薬剤防除を実施しましょう。

育苗時等、生育初期の加害は特に被害が甚大となるため、夏秋トマトでは、薬剤の灌注処理や粒剤の施用等を行い被害を防止しましょう。

1 被害の特徴

トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真 1）。ハモグリバエ類では線的な食害痕（写真 2）となるのに対し、トマトキバガではそれよりも幅広の面的な食害痕となる。

果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗する（写真 3）。ヘタ元等が加害され、被害に気が付きにくい場合がある。

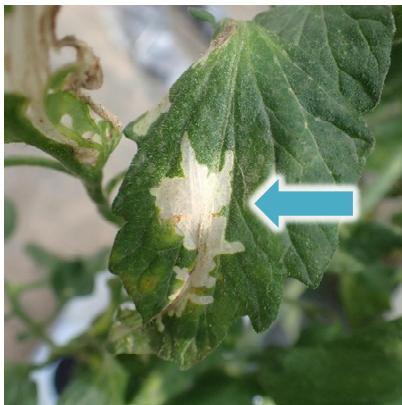


写真 1 トマトキバガの被害葉
（面的な食害痕）



写真 2 ハモグリバエ類の被害葉
（線状の食害痕）

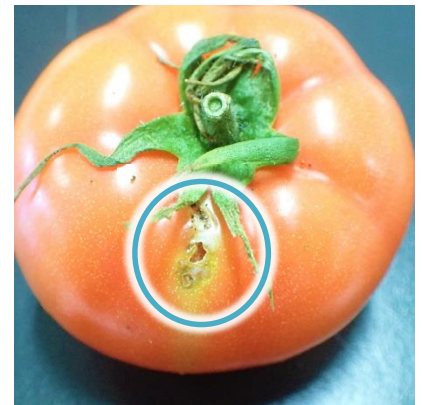


写真 3 トマトキバガの被害果
（○内は幼虫の食入痕）

2 形態

成虫（写真 4）は、翅を閉じた静止時で体長 5～7 mm（前翅長約 5 mm、開張約 10 mm）である。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一様に淡黒褐色である。

幼虫（写真 5）は、終齢で約 8 mm となる。体色は淡緑色～淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

卵（写真 6）は葉裏等に産み付けられ、大きさ 0.36×0.22mm の円筒状でクリーム色である。



写真 4 成虫



写真 5 幼虫



写真 6 卵

3 防除対策

トマトキバガの「入れない」、「増やさない」、「出さない」対策を徹底しましょう。

【入れない対策】

- 施設栽培では、本害虫の施設内への侵入防止及びコナジラミ類対策も兼ねてハウス開口部に 0.4mm 目合いの防虫ネットを設置する。なお、ネット等の破れや、すき間からも侵入するため、定期的に点検して破れ等を補修する。

【増やさない対策】

- 発生初期の防除が重要であるため、ほ場内をよく観察して早期発見に努める。疑わしい成虫、幼虫、被害葉、被害果実を見つけた際は、ビニル袋に密閉し最寄りの農業振興事務所に連絡する。
- 育苗期間中に被害が確認された施設及びその近隣地域では、灌注剤や粒剤の苗施用を行い、早期から本害虫の増殖防止対策を講じることが有効である（表 1）。
- 定植後等、ほ場内で本害虫の発生が認められた場合は、発生を拡大させないため、トマトキバガに登録のある農薬を散布する（表 2）。農薬の使用の際は、必ず最新の農薬登録情報を確認し、薬剤感受性の低下を防ぐため、系統（RAC コード）が異なる農薬でローテーション防除を行う。
- イヌホオズキ、ワルナスビ等のナス科雑草や、野良生えトマト等が発生源となるため、特に注意して除草する。

【出さない対策】

- ほ場やその周辺部に放置された収穫残渣、被害葉及び被害果実は本害虫の増殖源となるため、速やかに土中深く埋却するか、ビニル袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたいうえで、適切に処分する。
- 施設栽培では、作物の栽培終了時に作物を地際から切断し、一定期間施設を密閉して本種を死滅させた上で、残渣を適切に処分する。

【その他】

- 本害虫は、施設栽培だけでなく、加工用トマト等の露地栽培での被害も懸念されるため、ほ場をよく観察し、発生の有無を確認する。
- 本害虫の寄生植物として、トマト以外の農作物（なす、ばれいしょ等）も報告されているため、ほ場をよく確認し、発生初期の防除を徹底する。

表 1 トマト・ミニトマトのトマトキバガに登録のある粒剤等(令和 7 (2025) 年 4 月 9 日現在)

農薬名	登録作物 ^{注 1)}		希釈倍数 及び 使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	RAC コード ^{注 2)}
	トマト	ミニ トマト					
プリロッソ粒剤オメガ	○	○	2g/株	育苗期後半～ 定植時	株元 散布	1 回	I:28
プレバソンフロアブル 5	○	○	1 株当たり 25ml	育苗期後半～ 定植当日	灌注	1 回	I:28
ベリマーク SC	○	○	400 株 当 り 25mL (散布液 量 : 400 株 当 り 10~20L (1 株 当 り 25~50mL))	育苗期後半～ 定植当日	灌注	1 回	I:28

注 1 : 「○」は登録があることを示す。

表2 トマト・ミニトマトのトマトキバガに登録のある主な液剤(令和7(2025)年4月9日現在)

農薬名	登録作物 ^{注1)}		希釈倍数 及び 使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	RAC コード ^{注2)}
	トマト	ミニ トマト					
ディアナ SC	○	○	2500~5000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:5
ラディアント SC	○	○	2500~5000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:5
ダブルシューターSE	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:未,5
アグリメック	○	×	500~1000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:6
アニキ乳剤	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:6
アフーム乳剤	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	5 回以内	I:6
エスマルク DF	○	○	1000 倍	発生初期但し、 収穫前日まで	散布	—	I:11A
チューンアップ顆粒水和剤	○	○	2000 倍	発生初期但し、 収穫前日まで	散布	—	I:11A
コテツフロアブル	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:13
トルネードエース DF	○	×	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:22A
ファイントリム DF	○	×	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:22A
アクセルフロアブル	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:22B
ベネビア OD	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:28
フェニックス顆粒水和剤	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:28
プレバソフロアブル 5	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:28
ヨーバルフロアブル	○	○	2500 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:28
グレーシア乳剤	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:30
プレオフロアブル	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:UN

注1: 「○」は登録があることを、「×」は登録がないことを示す。

注2: 薬剤感受性の低下を防ぐため、RAC コードの異なる農薬のローテーション散布を行う。

詳細は、農業総合研究センター（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部 X（旧ツイッター）(@tochigi_nousei)」、
栃木県農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/>)
でもご覧になれます。



農総研HP